

音楽の教科指導と生徒指導の関係性

～教材×指導方法の工夫～

教科指導重点コース 造形・創造科学系
登 愛美

1 音楽の授業の役割

平成29年度中学校学習指導要領によると、音楽科の目標を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」¹と述べている。音楽科は感情や情緒等の「内的経験」を扱い、人の感情や想いを音や色彩や身体等の芸術の媒体でしか表すことができない。したがって人間感情を音で表現するためには音楽を感受したことが音楽を形づくっている要素の働きとどのような関係があるのかという、音楽についての論理的な音楽活動を学ぶ必要がある、それが教科指導の内容となる。「音楽を形づくっている要素」（以下、音楽の要素と述べる）が音楽表現とどのような関係があるのかという論理を学びながら生涯にわたって音楽に親しむことができる生徒の育成を目指して音楽の授業づくりをしていく必要がある。

2 授業で行う生徒指導

生徒指導提要で、生徒指導のねらいを「児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指すもの」としている。そのために「①自己存在感を与える②共感的な人間関係を育成する③自己決定の場を与える」の3点に特に留意することが生徒指導提要に書かれている。（以下、生徒指導の留意点と述べる）その中の「②共感的な人間関係を育成する」は「内的経験」に深く関わりがあり音楽教育で特に育成することができると思う。学習指導における生徒指導の役割として、落ち着いた雰囲気での学習できるよう、基本的な学習態度の在り方についての指導、教科等の学習においてねらいの達成に向けて意欲的に学習に取り組めるような創意工夫のある指導の2つの視点がある。さらに、安定して安全な環境で育つと、他人が信頼できることを学習していき、そのような環境以外の状況で

も他人を信頼するようになる。生徒指導を充実させるためにはこの先生なら中立・公正に指導をしてくれるという信頼が必要であると考え。このことから、著者が考える人の想いを大事にするという子ども像を目指して「授業規律づくり」「集団での役割取得」「見通しを持って学習に取り組む力の育成」を中心に、信頼関係形成が楽しい音楽の授業につながるよう授業実践を進めた。

3 授業で信頼関係形成するために

「信頼」は山岸ら（「信頼の意味と構造, 1995年9月」）によると²「不確実な情報に基づいて相手の善意や人間性を判断する際に生じる認知のバイアス」と定義している。教師としての授業力、指導力があるという期待と学校（教師）が公平で正しい視点で指導をしているという信頼の双方が関係している。不確実な情報とは、このような客観的認知のズレつまり相手の善意あるいは人間性に対する期待によってもたらされる。したがって教師の「①授業規律づくり②生徒や保護者、教師との関わり方③学びを実感できる授業づくりのための配慮」の3点に着目して実践した。

I 授業規律づくり

(1) 実態

年度始めに授業規律を明確に定め、繰り返し指導をしなかったため1学期の授業の集中力の欠ける場面があった。さまざまな教科の授業を観察していると、教師それぞれがルールを明確に示して授業をしている。例えば、指導者が説明している途中で質問をしないこと、iPadを使っても良いタイミングを示すこと、指導すべきことを、タイミングを逃さずに指導することなど音楽の授業を受ける上でのルールとして生徒への指導を徹底した。

1・文部科学省、2018年、中学校学習指導要領解説 音楽編、株式会社教育芸術者、PP.9、115

2・山岸俊男ら、1995年、信頼の意味と構造 信

頼とコミットメント関係に関する理論的・実証的研究、INSS Journal、科学技術振興機関、P5

(2) 実践方法

授業に臨むにあたり、次の5点を基本ルールとして生徒の指導の徹底を図った。

- ・挨拶は全員がきちんと姿勢良くできるまで繰り返す。
- ・iPadは必要な時だけ机に出すように指示する。
- ・授業中にiPadで授業に関係のないアプリ使っていたら後で個別に指導をする。
- ・全生徒が教師に集中できるまで授業を進めない。
- ・誰かを傷つける発言や友達の迷惑になることは決して許さない。

(3) 実践結果

結果は顕著にでた。授業の挨拶をするときに友達にちょっかいをかける生徒はいなくなり、今ではスムーズに授業始めることができるようになった。しかし、生徒にとって苦手な単元の学習、例えば集中して練習することが苦手な生徒に対して練習しなさいと指導しても、教師の目が離れると友達のおしゃべりや他ごとをしてしまう。苦手なことでもやってみようという動機を与えるためには、「前回の時よりも演奏できるようになったところが増えたから今日も頑張ろう」など生徒に合わせた柔軟な言葉選びが必要であると考えた。

II 教師との関わり方

(1) 実態

中高一貫校であり、職員室が3校舎で分かれているため職員数が多く、様々な先生と音楽の授業の進捗や成績処理などについて常に情報交換を行い、連携して教育活動を進めていく必要がある。

(2) 実践方法

- ・実践する上での疑問は他の教職員の指導を受ける。
- ・周りの教職員に連絡、報告、相談をする。
- ・行事の提案や相談事は単に指示を求めるのではなく、自分の考えをもっていく。

(3) 実践結果

今回の実習では周りの先生が声をかけてくださる機会が多かった。担任自ら自分の学級の生徒で気になる生徒はいないかどうか声をかけてくれた。また、質問をしたことについて快く教えてくださる先生ばかりで嬉しかった。内線の使い方、成績処理の仕方、音楽業者との打ち合わせなどさまざまな経験をすることができたとともに相談することは関係を深める上で大切なコミュニケーションであることがわかった。

III 学びを実感できる授業作りのための配慮

(1) 実態

講義型の授業よりも楽器に触れたり曲を作ったりするといった実技の授業がいいと言う生徒K、歌うことは好きだが、授業中にiPadを頻繁に触る生徒Nがいる。実習校では弦楽器4種類と管打楽器5種類の合計9種類の楽器の中から1種類を選択し、生徒が中学校3年間を通して練習している。演奏法が異なる楽器を個別に指導しながら、演奏技術の上達スピードに個人差がある状況の中で授業を展開しなければならない。生徒一人一人が自分で学ぶ姿勢が必要不可欠である、なかなか結果に結びつかない生徒もいる。生徒の学ぶ姿勢を引き出し、できるようになったことを実感できる授業づくりが必要だと考える。

(2) 実践方法

- 生徒が意欲的に自ら進んで楽器上達に向けて取り組めるように以下の点に留意して実践した。
- ・練習メニューを段階的に示したチェックシートを使い、毎時間の目標を生徒の演奏技術習熟度に合わせて設定できるようにする。(資料1)
- ・教師が実際に楽器を吹いて正しい音や運指を教える。
- ・担任と気になる生徒について情報交換を行う。

検定: 弾けるようになる初期バイオリン 第1巻	2年4組	名前:	
メニュー	目標	メニュー	目標
1 練習台を立てる。(1分)		26 5小節目を弾く	
2 第4弦 (D) の音がチューナーに表示されることを確認する		27 6小節目を弾く	
3 第4弦 (D) をアジャスターで調節する		28 7小節目を弾く	
4 第3弦 (G) の音がチューナーに表示されることを確認する		29 8小節目を弾く	
5 第3弦 (G) をアジャスターで調節する		30 5～8小節目を通して弾ける	
6 第2弦 (A) の音がチューナーに表示されることを確認する		31 9小節目を弾く	
7 第2弦 (A) をアジャスターで調節する		32 10小節目を弾く	
8 第1弦 (E) の音がチューナーに表示されることを確認する		33 11小節目を弾く	
9 第1弦 (E) をアジャスターで調節する		34 12小節目を弾く	
10 第4弦を弓を使って長く音を伸ばす		35 2～3小節目を通して弾ける	
11 第3弦を弓を使って長く音を伸ばす		36 13小節目を弾く	
12 第2弦を弓を使って長く音を伸ばす		37 14小節目を弾く	
13 第1弦を弓を使って長く音を伸ばす		38 15小節目を弾く	
14 第4弦で左手1、2、3、4の指順でソラドが弾ける		39 16小節目を弾く	
15 第3弦で左手1、2、3、4の指順でミファが弾ける		40 13～15小節目を通して弾ける	
16 第2弦で左手1、2、3、4の指順でラシレが弾ける		41 17～19小節目を通して弾ける	
17 第1弦で左手1、2、3、4の指順でソファックが弾ける		42 20～21小節目を通して弾ける	
18 第4弦第3からドレニードが弾ける		43 22小節目を弾く	
19 さらに音が弾ける		44 23小節目を弾く	
20 最初の楽譜に名前を書き		45 24～25小節目を通して弾ける	
21 1小節目を弾ける。(4弦スタート)		46 24～25小節目を通して弾ける	
22 2小節目を弾ける		47 26～28小節目を通して弾ける	
23 3小節目を弾ける		48 1～28小節目を通して弾ける	
24 4小節目を弾ける		49 校歌を3番まで通して弾ける	
25 1～4小節目を通して弾ける		50 シンジョー8ひから3つずつ弾いてJ=116で校歌3番まで通して弾ける	

(資料1 チェックシート 2年生バイオリンパートより)

(3) 実践結果

チェックシートを使い始めた授業以降、生徒自身が本時で何を練習しようか目標を立てて練習するようになった。また生徒全員の演奏技術習熟度状況が把握しやすくなり個へ適した声かけをすることができるようになった。なかなか練習に取り組みなかつたり授業に集中できなかつたりすることが多い生徒については担任と定期的に情報交換をすることで私生活の悩みが関わっていることや担任からの指導によって授業態度の改善が見られた。

4 授業で行う配慮

実習校は、何かしら生きづらさを感じている生徒も同じ教室で学ぶ学校である。音楽の授業は感情や情緒等の「内的経験」を扱う教科である。自分の感じたことを言葉で表現したり、音楽から情景をイメージしたりすることが苦手な生徒に対して何かしら配慮や支援をしなければ分からない授業となってしまう、音楽科の目標は達成できないだろう。したがって「I ワークシートII グループ学習の工夫」の2点に着目して実践した。

I ワークシートの工夫

(1) 実態

指示を聞き漏らしてしまい、何をすれば良いのかわからなくなって手が止まってしまう生徒Aがいる。ワークシートの点検をすると、説明したことまで詳細にメモをとる生徒、板書のみを綺麗に書き写す生徒、空欄が多い生徒などばらつきがあった。自由にメモができるワークシートだと何を書くべきかわからない生徒がいることが考えられる。

(2) 実践方法

- ・空欄ごとに番号や記号をつけて板書を連動する。
- ・全てのワークシートに番号をつけて、生徒がプリントの管理をやすくする。(資料2)
- ・本時の授業で学んでほしいことに関わる問題や質問をワークシートの最後に示す。

No.8 □□「著作権について」□3年A組□□番号名前:

1.著作権について□教科書 p.50~51

人間によって考え出されている知的な創作物を保護する権利を (1)

(1)には…音楽、小説、絵画、取扱説明書、写真、「ワンクリックで今すぐ買う」などの案、ネットのページデザイン、発明等がある。

著作権→文化庁に申請の必要がなく、創作された瞬間に権利が発生する。保護期間は、原則として著作者の生存年数及びその死後□□(2) 年間。

※2018年12月30日に50年間から□□(3) 年間に変わった。

○録音物などを配信するときにかかる著作権→(3)

○他人の編曲による音源にかかる著作権→(4)

(資料2 ワークシート抜粋)

(3) 実践結果

大事なキーワードは穴抜き文章にして、空欄ごとに記号をつけて板書と連動することで書き漏らしてしまった生徒も後で確認して書くことができ、ワークシートの未記入率は減った。また、全てのワークシートに番号をふっておき、生徒がプリントの管理をやすく

した。しかしプリントを教科書に挟んで管理する生徒はプリントを紛失することが多かったので音楽科でファイルを購入してそれに管理するようにしたり、データでプリントを配布して保存したりする工夫が必要だと感じた。授業を構成するときにこの1時間で何を学んで欲しいかを考え、ワークシートの振り返りに問題として出すことは生徒の理解度を深めるとともに自分の授業の評価にもなったと考える。

II グループ学習の工夫

(1) 実態

グループ活動を観察していると、他の人に任せっきりにして責任感に乏しい生徒K、クラスの人気者ではあるが指示をよく聞いていない生徒I、グループの生徒と自分の意見をぶつけないことができないNなどがいる。一方、役割を与えると責任を持って生徒を率いようとするK、どのようなグループでもリーダーとしてまとめようとする生徒Hなどがいる。グループ構成が変わると活発に学習に取り組むようになったりおしゃべりに夢中になり学習活動が進まなくなったりする。グループ構成の仕方や学習方法の工夫をすることで全員がグループ内でそれぞれの役割を得ることができると考える。

(2) 実践方法

- ・担任と生徒の友人関係に関わる情報共有をする。
- ・バズ学習で学習する。
- ・音楽室の座席を教室と同じ座席にする。

(3) 実践結果

音楽室での座席配置は教室と同じにすることで他の教科授業と同じ教室環境で学習することができ、落ち着いたグループ学習ができるようになった。

調べ学習では「バズ学習」という手法を使うことで一人一人が責任感をもち、全員が集中して他のグループの発表で情報収集と発表を行う姿が見られた。しかし他のグループの発表原稿を丸写ししたり、iPadで撮影したもので済ませたりする生徒がいた。学びたいという動機づけが弱かったこと、このようになることを想定したルール設定不足を痛感した。杉江は「バズ学習の3つの基本として①信頼に支えられた人間関係が教育の基盤である②学習指導の基本は学習者の動機づけである③学習指導では原理の一貫性と目標の統合性を図る必要がある³⁾」と述べている。今回の実戦では生徒一人一人が役割を取得できたが、学習への動機

³⁾ ・杉江修治、2001年、バズ学習の理論と実践、理 学専攻科雑誌、43巻、東京理科大学、PP83-90

づけが課題であることがわかった。

5 生涯にわたって音楽を楽しむ生徒の育成

I 音楽科で目指す生徒の姿

中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年告示）によると音楽科の目標は「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを旨とする」と書かれている。変化の激しい現代では、音楽の多様性を理解し、さまざまな人と協働して生きていかなければならない。そのためには、音楽が持つ固有の価値を尊重し、その多様性を理解できる力が必要である。音楽の要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるような授業実践を通して生涯にわたって音楽を親しむことができる生徒の育成を目指したい。

(1) 実態

昨年度はコロナ禍でiPadの「GarageBand」を使った創作活動を多く実践していた。しかし「GarageBand」のメトロノームに合わせて演奏することができる生徒は少なく、苦戦している様子が見られた。中にはずれていることに気づいていない生徒もいた。「『合わせる』対象はアンサンブルにおけるリズム的な要素のことを指し示すことが多いが、大変抽象的であり、伝えたい意味が伝わりにくい」と小野は述べている。⁴筆者は、音楽を合わせる体験の中で人の思いに寄り添い、感動を味わうことで他者と協働しながら生涯にわたって音楽に親しむことができる生徒の育成ができると考える。そこで、さまざまな「合わせる」場面で音楽の要素を認知させ、思考を伴った音楽活動ができるようにしたい。

(2) アンケート調査

①目的

「合わせる」場面ごとに音楽の要素を知覚・感受し、その働きについて実感を伴う理解を得るためには、言語活動を適切に位置付け「A鑑賞」「B表現」を深めていくなかで音楽の要素を認知する必要がある。また、授業で「リズム」と「速度」の意味を混同して使っている生徒がいた。学習方法と教材選択の工夫によって音楽の要素の認知に変化があるかどうかを調査するためにアンケートを実施した。

②方法

本年度6月に中学校1年生（25名）を対象に第1回

目、12月に中学校1年生（24名）を対象に第2回目のアンケート調査を全く同じ内容で実施した。質問項目は、「音楽の要素の意味をそれぞれ説明しなさい」と音楽を聴いた感想に関わる文章において「空欄に当てはまる言葉を自由に書きなさい」の2項目である。

③結果

「音色」「強弱」に関する記述内容にあまり変化はなかったが、第1回目には記述数が少なかった「形式」「構成」についての記述数がかなり増えた。また記述内容を細かくみると、具体的に言葉で説明しようとする生徒が増えた。

「テクスチュア」に関する記述は第1回目、第2回目ともに分からないと回答する生徒が多かった。合唱や合奏でも音の重なり方に触れる生徒はいるものの、教師が「テクスチュア」という言葉を使わないため生徒に認知されず、依然として認知しにくい音楽の要素であることがわかった。

文章完成法の結果をみると、第1回目の時は「速度がある曲はいい感じがする」「強弱がある曲はいい感じがする」など抽象的だったものが、誰もが感じるであろう共通的な感覚、例えば「速度が遅い曲は落ち着いた感じがする」「強弱がある曲ははっきりした感じがする」と具体的な記述が増えた。一方、課題であった「速度」と「リズム」の意味の混同は第2回目でもみられた（資料3参照）。合唱や器楽の授業で「速度」「リズム」の単語を安易に使わず、具体的な言葉を選んで指導すべきである。

生徒	第1回目	第2回目
1	テンポ	テンポ
2	ウンタンウンタンウンタン	音のノリ
3	歌のテンポ	
4	無回答	テンポ
5	一定の時間のこと	一定の速さの拍
6	テンポ	拍
7	テンポ、スムーズに	テンポ、テンポを速くする
8	感かく	テンポ
9	テンポ	
10		
11	テンポ	テンポ
12	わからない	
13	音のタイミング	テンポ
14	無回答	拍
15	流れ	テンポ
16	音楽のテンポ	テンポ
17	音をはずませる	その曲にあったテンポ
18	音のこと	音楽のこと
19	曲にある音の間隔	その曲のテンポ
20	無回答	その部分の速さ
21	その曲を刻んでいるテンポ	その曲のテンポ
22	一つ一つの音符の早さ	曲に必要な拍
23	3拍子、4拍子とか	テンポ
24	音の間隔	テンポのこと
25	テンポのような一定の音のこと	音の中の主音
26	リズム感、リズム	ずんちゃっちゃっみたいなの同じ速さで出す音のこと
27		歌などのテンポ、リズムでどんな歌かわかる

（資料3 アンケート結果より「リズム」の抜粋）

⁴・小野志織、2020年、「具体的操作期」前後の抽象的意識から具体的意識へ導く指導の模索、P3

アンケート結果から、音楽の授業によって生徒の音楽の要素の認知が変化することがわかった。次に学習方法と教材の選択を視点に授業実践例を示しながら音楽の要素の認知の変化との関わりについて考察する。

II 学習方法の工夫

(1) 実践方法

人の感覚量是对数的・指数的であるというウェーバー・フェヒナーの法則がある。強弱や音色の違いを生徒に認知させるためには明らかに違いがわかるもので比較させる必要があると考える。また、岩宮は「識別ができるのは、聞こえてきた音と記憶の中にある音を照合する過程の働きによっている」と述べている。これらのことから、鑑賞の授業では第1段階として違いが分かるようになること、第2段階として音楽を特徴づける共通の性質を見出すことで音楽の要素を認知できるようにすると考える。

また、松井らは、「Lappaらの研究成果から、受動的に音楽を聴取するよりも、能動的に演奏することで音を聴取する方が、聴覚野の発達や音楽認知能力の向上を促すという新しい知見を提供している」と述べている。このことから音楽の要素を認知させるためには「A鑑賞」に限らず「B表現」の領域で演奏するという経験を大切にする必要があると考える。特に2年生の合奏の授業を通して音程の違いに気づき反応できるようになった生徒が複数人いたことから、自分で音を出して聴くという経験は「合わせる」ことに必要である。

これらのことから「比較聴取」「経験学習」の授業方法を中心にいくつかの学習方法で授業実践を行なった。

(2) 実践例

① A鑑賞

ア 単元名：「音楽と詩の関わりを感じ取ろう」
対象：中学校1年生
学習方法：比較聴取
気づかせたい音楽の要素：音色、強弱、旋律

「魔王」の詩の内容を先に学習し、登場人物が何人いるか考える。その登場人物を1人の歌手でどのように表現しているか学習した。ドイツ語で歌っている音源（音声のみ）を使い、表現の工夫に気づくようにしたことで登場人物によって声の音色を変えていること、子供の恐怖を伝えるために旋律の音の高さや強弱が変わっていることに気づく生徒の反応が見られた。

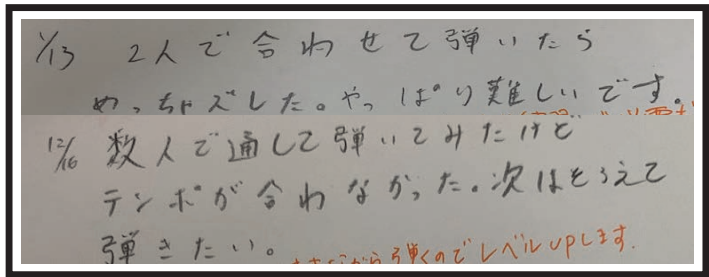
単元名：「分かりやすい指揮をするために」
対象：中学校2年生
学習方法：経験学習、グループ学習
気づかせたい音楽の要素：速度、強弱

ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」の冒頭の指揮を題材に、わかりやすい指揮にするためにはどうすれば良いかを考えた。演奏者に手拍子で参加させ、グループでどうしたらわかりやすくなるか考えさせた。グループごとに発表してもらった結果、さまざまな動き方で叩いて欲しいタイミングを示していたが、共通していたのは「ここ」というタイミングの前に予備拍のようなものがあつたことである。清水らは、体験学習は「アクティビティ」と「振り返り」の2つによって構成されており、体験を振り返ることで気づきを促し、それを概念化することで、体験から得たものを知識として吸収できる。この時の教師の役割は、アクティビティの設計と体験を概念化し知識化するファシリテータとしての役割を果たすべきであると述べている。これらのことからグループにおける体験学習は音楽の要素を知識として習得することができる方法であると考えられる。

② B表現

ア 単元名：「オーケストラの楽器を演奏しよう」
対象：中学校2年生
学習方法：習熟度別学習、ペア学習
気づかせたい音楽の要素：テクスチュア

校歌の演奏をするとき、多くの生徒は休符を正しく休むことができない。また、ビオラやチェロ、コントラバスのパートを担当する生徒は旋律以外の動きをする演奏を初めて体験することになると考える。一人でじっくり練習することは大切であるが、2人ペアで練習するように声をかけた。また、器楽の実技試験では2人ペアで実施した。そうすることで相手の音を聴いて合わせようとする生徒の姿、譜面通りに弾けていないことに気づく生徒の記述が見られた。(資料4)しかし「テクスチュア」という記述は一切なく、知覚しているが認知できていない現状が明らかになった。



(資料4チェックシートより抜粋)

① 単元名：「思いの伝わる『明日という日が』の速さを考えよう」
 対象：中学校1年生
 学習方法：比較聴取、経験学習
 気づかせたい音楽の要素：速さ、テクスチャ

合唱曲『明日という日が』を題材に、様々な速さで歌い、録音した。歌ってみた感想と聴いてみた感想をワークシートに書かせ、それぞれの違いを感じ取らせた。前時間に歌詞の理解を深めたものと合わせて、聴き手にとって思いが伝わりやすい曲の「速さ」を考えさせた。生徒のワークシート（資料5）を見ると歌い手と聴き手のそれぞれの立場によって「速さ」がもたらす感じ方が異なることに気づいていることがわかる。

3 聴き比べよう		
速さ	歌ってみた感想	聴いてみた感想
$\text{♩} = 60$	おもしろい!	途中でリズムが速くはなれてしまっていた。強弱で言うと弱かった
$\text{♩} = 80$	いつもの曲と同じ速さで歌いやすかった。	良い感じの速さに感じられた。強弱で言うと弱かった
$\text{♩} = 100$	速くて歌いやすかった。	バウバウだった。強弱で言うと強
歌ってみた感想	聴いてみた感想	
いつもより歌いにくかった。リズムをあわせにくかった。	リズムは多少けがみがあった。声が小さかった。	
60のときより歌いやすかった。	音のかさなりが良かった。速さがちょうどよかった。	
息つきが大変で、だれかおくれた。バウバウ	パートごとに少しづれがあった。	

(資料5 ワークシートより抜粋)

Ⅲ教材の選択

(1) 実態

中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説では、音楽科の授業における鑑賞共通教材の選択について「ア 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切なものを取り扱うこと。」⁵と述べている。また、木下、小松崎らによると「音楽の要素と楽曲の曲想や雰囲気との連携が効果的に現れている作品、適切な演奏CDソフトの入手が比較的容易にできるものを選択すべきである」⁶と述べている。これらのことから学ばせたいことを視点に、教師が適切に鑑賞教材を選択する必要がある。

(2) 実践方法

前年度に生徒が知っているだろうと考えた曲、知らないだろうと考えた曲を聴かせて感想を書かせ、曲ごとにどのような音楽の要素を認知しやすいか調査を行った。ほとんどの生徒が知っている曲はアニメや映画の主題歌になっていることが多く、音楽の要素を認知するよりもアニメや映画のキャラクターを想起する記述が多かった。また、同じ曲でも授業で学習する前と後では認知する音楽の要素が異なっていたことから教材に対する視点の提示は音楽の要素の認知に関係があると考えられる。これらの結果を踏まえて教材を選択した。鑑賞教材には生徒が創作した曲を鑑賞するパターンと作曲家が作った曲を鑑賞する2パターンあると考えるが、今回は作曲家が作った曲のみを扱うものとする。

(3) 実践例

次に今年度著者が中学校1年生の授業で扱った教材と気づかせたい音楽の要素をまとめたものを（資料6）示す。

曲	音楽の要素
魔王（教科書）	音色、旋律、強弱
クラッピングラブソディ（教科書）	音色、リズム、テクスチャ
金毘羅船船（教科書）	リズム
大きな古時計（教科書）	音色、形式
明日という日が（教科書）	音色、旋律、

⁵ ・文部科学省、2018年、中学校学習指導要領解説音楽編、株式会社教育芸術者、P9, 115

学校鑑賞教材候補曲70選、音楽教育実践ジャーナル、2巻2号、日本音楽教育学会、P92-100

⁶ ・木下大輔, 新井恵美, 小松崎倫子、2005年、中

	テクスチュア、強弱
君をのせて (教科書)	リズム、速度
Cry Baby「Official 髭男dism」	音色、リズム
マリーゴールド「あいみょん」	音色、リズム
シュガーソングとビターステップ「UNISON SQUARE GARDEN」	音色、リズム
カントリーロード「耳をすませば」より	旋律
さんぽ「となりのトトロ」より	旋律
ハトと少年「久石譲」	旋律
ルパン3世のテーマ「大野雄二」	旋律
マルマルモリモリ「薫と友樹、たまにムック。」	旋律
祝いめでた (教科書)	音色、形式
宮城長持唄 (教科書)	音色、旋律、形式
斎太郎節 (教科書)	音色、旋律
南部牛追唄 (教科書)	音色、旋律、形式
谷茶目 (教科書)	音色、リズム、形式
こきりこ (教科書)	音色、リズム、形式
黒田節 (教科書)	音色、形式
江戸子守歌 (教科書)	音色、形式
月ぬ美しゃ (教科書)	音色、旋律
うさぎ「わらべ唄」	旋律
ソーラン節 (教科書)	旋律
蛍の光「スコットランド民謡」	旋律
島人ぬ宝「BEGIN」	音色、旋律
千本桜「初音ミク」	旋律
キセキ「Greeeen」	リズム、旋律
月の光「ドビュッシー」	音色
恋とはどんなものかしら「モーツァルト」	音色、旋律
野ばら「シューベルト」	音色、旋律
かやの木山の「山田耕作」	音色、旋律
きらきら星「フランス民謡」	旋律
君が代 (教科書)	旋律
校歌	旋律
春 (教科書)	音色、旋律、形式、構成
We' ll Find The Way (教科書)	テクスチュア、強弱、構成

(資料6 中1教材ごとに気づかせたい音楽の要素)

6 今後の課題と展望

本研究では、生徒指導の留意点の1つである「共感的な人間関係の育成」を視点に音楽の授業で「合わせる」ために音楽の要素を認知させる方法の研究を繰り返してきた。今回明らかになったことは、教材選択と学習方法の工夫次第で認知しやすい音楽の要素が変わることである。

教科書に載っている曲は認知しやすい音楽の要素が示されている。しかし世界には膨大な数の曲が存在し、教科書の曲のみを扱うだけでは生活や社会の音や音楽、音楽文化と関わる資質能力の育成は不十分である。したがって教科書の曲を含めた様々な曲の教材研究を重ね「何を学ばせたいか」を視点に考えた授業を展開すべきである。

共感的な人間関係をするために思考を伴った音楽活動をするために音楽の要素を認知させる方法を模索する中で、「合わせる」ための動機が不足しているために学習に前向きになれない生徒の様子が見られた。今後は「合わせたい」という動機づけの視点でも研究を重ね、共感的な人間関係の育成ができるような授業づくりを実践したい。

様々な「合わせる」経験の中で人の想いや感情に触れることで音楽の多様性を理解し、生涯にわたって音楽を親しむ生徒の育成を目指したい。

7 終わりに

この2年間コロナ禍によって音楽の器楽や合唱が満身に指導できる状況ではなかった。生徒にとっての3年間は2度と経験することができない。「できないから仕方がない」ではなく、一生に一度の中学生活で学ぶべきことを逃してはならないと考える。

楽器、合唱ができなくてもその基本となるリズム感や音に対する感受性などは少しでも育てることが必要である。そのためにiPadを活用したり実際に体験できる活動にしたりして生徒が常に楽しみながら授業に参加できるように努力してきた。これからも「できないからやらない」ではなく先を見据えて「今できることを最大限に」という姿勢を忘れずに授業実践に取り組みたい。それが「生涯にわたって音楽を親しむ生徒の育成」の一助となることを信じている。

<筆者が実践した教材と学習方法まとめ>

月	時間数	単元・内容	扱った曲	学習指導要領		共通事項	学習方法
				表現	鑑賞		
9	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌曲を知ろう ・ 根拠をもって曲を選ぼう ・ 日本らしい音楽の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魔王 (教科書) ・ 金毘羅船 (教科書) ・ ソーラン節 (教科書) ・ 島人ぬ宝「BEGIN」 ・ 千本桜「初音ミク」 ・ キセキ「Greeeen」 ・ 恋とはどんなものかしら「モーツアルト」 ・ 野ばら「シューベルト」 ・ かやの木山の「山田耕作」 		○	音色 リズム 旋律 テクスチャ 強弱 形式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較聴取
10	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音階について ・ 日本の民謡音楽 ・ 校歌を歌おう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ うさぎ「わらべ唄」 ・ 祝いめでた (教科書) ・ 宮城長持唄 (教科書) ・ 斎太郎節 (教科書) ・ 南部牛追唄 (教科書) ・ 谷茶目 (教科書) ・ こきりこ (教科書) ・ 黒田節 (教科書) ・ 江戸子守歌 (教科書) ・ 月ぬ美しや (教科書) ・ 蛍の光「スコットランド民謡」 ・ 校歌 		○	音色 リズム 旋律 形式	<ul style="list-style-type: none"> ・ バズ学習 ・ グループ学習
11	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「GarageBand」を使えるようになろう ・ コードネーム ・ メロディの雰囲気に合わせて演奏しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カントリーロード「耳をすませば」より ・ さんぽ「となりのトトロ」より ・ ハトと少年「久石譲」 ・ ルパン3世のテーマ「大野雄二」 ・ マルマルモリモリ「薫と友樹、たまにムック。」 ・ 君をのせて (教科書) 	○		音色 リズム 旋律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人または近くの人

1 2	4	・より良い合唱にしよう	・校歌 ・君が代 ・明日という日が (教科書)	○	○	音色 リズム 旋律 テクスチャ 強弱 構成	・比較聴取
1	6	・より良い合唱にしよう	・校歌 ・君が代 ・明日という日が (教科書)	○	○	音色 リズム 旋律 テクスチャ 強弱 構成	・比較聴取 ・経験学習
2	6	・絵画と音楽の関係性を見つけよう ・テーマ曲を作ろう	・展覧会の絵 ・ジョーズのテーマ ・いくつかのCM曲	○	○	音色 リズム 旋律 構成	・経験学習

(資料7 教材選択×学習方法ごとでまとめた気づかせたい音楽の要素)

引用文献等

- ・岩宮眞一郎、2020年、『音と音楽の科学』、株式会社技術評論社、P72
- ・小野志織、2020年、『『具体的操作期』前後の抽象的意識から具体的意識へ導く指導の模索』、P3
- ・木下大輔, 新井恵美, 小松崎倫子、2005年、「中学校鑑賞教材候補曲70選」、音楽教育実践ジャーナル、2巻2号、日本音楽教育学会、PP. 92-100
- ・清水崇博, 井庭崇、2006年、「体験学習におけるファシリテーションのパターン分析」、情報処理学会研究報告数理モデル化と問題解決、2006巻29号、PP. 89-92
- ・杉江修治、2001年、「バズ学習の理論と実践」、理学専攻科雑誌、43巻、東京理科大学、P83-90
- ・藤澤隆史, 松井淑恵, 風井浩志, 古屋晋一, 片寄晴弘、2009年、「音楽情報処理技術の最前線：9. 音楽を鑑賞する脳」、情報処理、50巻8号、情報処理学会、PP. 764-770
- ・西園芳信、1997年、「1 音楽教育の目的（I 何のために学校で音楽教育をするのか）」、学校音楽教育研究、1巻、日本音楽教育実践学会、PP. 1-10
- ・山岸俊男ら、1995年、「信頼の意味と構造 信頼とコミットメント関係に関する理論的・実証的研究」、INSS Journal、科学技術振興機関、P5
- ・横山真男、2021年、『科学で読み解くクラシック音楽入門』、株式会社技術評論社、P23
- ・文部科学省、2017年、『生徒指導提要』、教育図書株式会社、P1, 5
- ・文部科学省、2018年、『中学校学習指導要領解説音楽編』、株式会社教育芸術者、P9, 115